

論文

ストリートファッションにおける女性服装色の変遷に関する研究(1) —同調色と相反色および循環性に関する考察—

The research on transition of the color of women's clothes on the street fashion (I)
—The study on the synchronized and the unsynchronized colors and the circulation in the color—

渡辺明日香	Asuka WATANABE	共立女子短期大学	Kyoritsu Women's Junior College
城 一夫	Kazuo JO	共立女子短期大学	Kyoritsu Women's Junior College
児玉 好信	Yoshinobu KODAMA	共立女子短期大学	Kyoritsu Women's Junior College

Abstract

As a result of research on the color of women's clothes in Harajuku, Shibuya, and Ginza from 1994 to 2004, we reached the following four conclusions. In a range of 11 years, first, there is a tendency to the circulation of clothes color in every 5 years, which achromatic color and chromatic color increase over 50% in turn. In Harajuku and Shibuya, achromatic color mainly on black and chromatic color mainly on blue are popular in turn. In Ginza, black and white circulate every 5 years. Second, the clothes color appears with the characters in each area. In Harajuku and Shibuya, there are many common points. But Ginza is different from two areas. Third, there are the synchronized colors and the unsynchronized colors, which increase and decrease together, or not. In the synchronized colors, there are color combinations with blue and pink, red or green within the range of the contrast hue and the intermediate hue. In the unsynchronized color, there are combinations with achromatic and chromatic colors. For the theory of color cycles of Faber Birren and Nobuo Osaku, they suggested that blue+red period and brown+green period circulate in turn, and so on. We concluded that the achromatic colors mainly on black come into fashion for 3 years, then achromatic colors and chromatic colors come into simultaneously for the following 2 years, and then chromatic colors mainly on blue are dominant between next 3 years.

Key Words: color of women's clothes, synchronized colors, unsynchronized colors, circulation in the color

要 旨

1994年～2004年の原宿、渋谷、銀座での女性服装色の調査に基づき分析した結果、以下の4つのことが明らかとなった。

11年間の調査の範囲において、第一に服装色には循環性を示す傾向があり、無彩色の割合が50%を超えると、有彩色が50%以上となるときが約5年ごとに交互している。地域別にみれば、原宿と渋谷は、ブラックを中心とした無彩色の時期とブルーをベースに多くの有彩色が出現する時期とが交互に循環し、銀座ではブラックとホワイトが約5年で循環している。第二に服装色の出現推移は、地域ごとの特徴があり、原宿と渋谷は共通点が多いが、銀座は異なっている。第三に服装色には、増減の割合が同じように推移する同調色と、反対となるような相反色がある。同調色は、有彩色のブルーを基点にピンクやレッド、グリーンとの組み合わせなどの、対照色相から中差色相の範囲の組み合わせが多く、相反色はすべて無彩色と有彩色の組み合わせであった。フェイバー・ビレンや太作陶夫らによって青+赤期と茶+緑期とが交互に循環し、交差期には無彩色が流行するという周期説が提案されているが、本調査では、ブラックを中心とした無彩色が優位になる約3年間の時期と、無彩色と有彩色がほぼ同じ割合となる約2年間の時期を経て、ブルーを中心とした有彩色が優位になる約3年間の時期が循環傾向にあることが分かった。

キーワード: 香り, 女性服装色, 同調色, 相反色, 色の循環性

1. はじめに

筆者らは、若者のファッションと服装色の変化を把握する目的で、1994年より東京都内の主要な繁華街である原宿・渋谷・銀座の街頭で毎月一回、定点観測を行ない、写真撮影によりファッション動向の調査、ならびに服装色の分析を継続して行っている。これらの調査から、今回は、下記の項目に焦点を当て、研究・分析した。

1. 11年間のストリートファッションの服装色の推移と規則性の有無
2. 原宿・渋谷・銀座の3地域での出現色の特徴
3. 服装色における同調色と相反色の有無および特徴
4. 既存の研究と比較しての11年間のストリートファッションの服装色の推移

なお、本報は11年間の調査年範囲での服装色の傾向分析を試みるものであり、将来的に、より長期的な調査データに基づく傾向変動の分析を行うための、基礎的な研究として考察を行うものである。

2. 調査方法

2. 1. 定点観測方法

調査期間は1994年5月～2004年12月の11年間、延べ128回にわたる調査を行い、原宿(表参道交差点)、渋谷(センター街入り口)、銀座(中央通り)の3地域を調査地点とし、毎月1回、週末に定点観測を行なった。対象は服装色にトレンドが反映されやすい若い女性とし、私服着用と類推される歩行中の対象者に対し、ランダムサンプリングに基づき写真撮影を行った。

使用したカメラはペンタックスMZ-5、絞り・シャッタースピードはオート設定にて撮影し、フジフィルムのプリントシステムにて現像した。各調査地域の被写体の対象の特徴は表2-1の通りである。11年間の

被写体の数は17,182人、衣服のアイテム数は44,488点である(表2-2)。

2. 2. 集計に用いた色票、および服装色の集計方法

得られた写真をもとに、着用アイテムの色をJCC40(JAFCA COLOR CODE40)と照合させ、近似色を集計した。このJCC40は、1983年に(社)日本流行色協会(現・(財)日本ファッション協会 流行色情報センター)により編纂・発行された色分類システムであり、服飾、家電、自動車などの業界で多用されている基本色をヒュー&トーンシステムに準じた体系でまとめたものである。収録色数は、最も頻用されている有彩色35色+カラードグレイ(アイボリー)1色+無彩色4色(ホワイト、グレイ、ダークグレイ、ブラック)の計40色となっている(表2-3)。

比色方法は視感測色とし、北窓昼光のもと、曇天をのぞく10時～15時の間に筆者の勤務する大学の研究室にて行った。判定者は通常の色覚を有し判定経験を積んだ20代の女性であり、写真の服装色に最も近い色をJCC40の色票から選び集計した。

表2-1 各調査地域の対象者の特徴

原宿	10代前半から20代前半の中・高生、専門学校生や大学生、フリーター等の若者が大半。Tシャツやカットソーにジーンズ、スエット素材のワンピース、ブルゾンやトレンチコートにミニスカートとスパッツのレイヤードなど、ミリタリーやスポーツをベースとしたボーイッシュでカジュアルな感覚の単品アイテムをコーディネートさせたスタイルが主流。
渋谷	10代前半から20代前半の女子高生やフリーターを中心としたヤング層が中心となっている。ノースリーブのタンクトップにデニムのタイトスカート、ショート丈のジャケットにジーンズ、身体にフィットしたニットやスエット素材のワンピース、タイトなシルエットのブラウスとクロップスパンツなど、健康的で少し開放的な感覚のアイテムが好まれる。
銀座	20代前半から30代前半の落ち着いた女子大生やもつ社会人女性を中心。テーラードジャケットにマニッシュなパンツ、シャツブラウスとプリーツスカート、カーディガンのアンサンブルとタイトスカート、ウールのハーフコートやフェミニンなワンピースなど、上品でシックな統一感のあるアイテムが好まれる。

表2-2 各調査地域の被写体数、および衣類のアイテム数

	被写体数	衣類のアイテム数
原宿	5,640人	16,924点
渋谷	6,037人	14,856点
銀座	5,505人	12,708点
合計	17,182人	44,488点

表2-3 集計に使用した色分類システム<JAFCA COLOR CODE40>

色系統	有彩色											無彩色
	PK ピンク	RE レッド	OR オレンジ	BR ブラウン	YE イエロー	YG イエローグリーン	GN グリーン	BG ブルーグリーン	BL ブルー	PU パープル	CG カラードグレイ	
トーン	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	ビビッド (高彩度)	カラード グレイ	ニュートラル
色票番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ライト	ライト ピンク	ライト レッド	ライト オレンジ	ライト ブラウン	ライト イエロー	ライト イエローグリーン	ライト グリーン	ライト ブルーグリーン	ライト ブルー	ライト パープル		グレイ
色票番号	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		13
グレイッシュ	グレイッシュ ピンク	グレイッシュ レッド	グレイッシュ オレンジ	グレイッシュ ブラウン	グレイッシュ イエロー	グレイッシュ イエローグリーン	グレイッシュ グリーン	グレイッシュ ブルーグリーン	グレイッシュ ブルー	グレイッシュ パープル		ダークグレイ
色票番号	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		14
ダーク	ダーク ピンク	ダーク レッド	ダーク オレンジ	ダーク ブラウン	ダーク イエロー	ダーク イエローグリーン	ダーク グリーン	ダーク ブルーグリーン	ダーク ブルー	ダーク パープル		ブラック
色票番号	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		15
ダーク	ダーク ピンク	ダーク レッド	ダーク オレンジ	ダーク ブラウン	ダーク イエロー	ダーク イエローグリーン	ダーク グリーン	ダーク ブルーグリーン	ダーク ブルー	ダーク パープル		ブラック
色票番号	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		16

※表中の上段に系統色名、中段()内はJCC40で定めた慣用色名を、下段はマンセル値を表記。空欄の部分は色分類システムにない部分。

このときの集計方法は、被写体が着用している服装について、写真から色が判断できるすべての着衣を集計するものとし、ジャケット、インナー、パンツ、コート、ワンピースなど、アイテムごとに1カウントとし、スーツなどの上下同色の場合は、ジャケット1、スカート1という具合に2アイテムとして集計した。ただし、バッグや靴等の小物は除外した。

これらの集計結果は11年間トータル、ならびに1994年～2004年の各年別に合計し、考察にあたってはJCC40の色系統、JCC40のトーン、JCC40のヒュー&トーンシステム準拠(以下JCC40という)に従って各色別に集計して検討した。

ここで色系統は、表2-3にあるようにピンク、レッド、オレンジ、ブラウン、イエロー、イエローグリーン、グリーン、ブルーグリーン、ブルー、パープルの10に分類し、トーンでは、ビビッド、ライト、グレイッシュ、ダル、ダークの5つに分類した。さらにカラードグレイ(アイボリー)は単独で集計したが、有彩色と無彩色の割合を検討した際は有彩色に加えている。無彩色(ホワイト、グレイ、ブラック)のグレイについては、表2-3よりグレイとダークグレイを合計しグレイとして集計を行った。

写真の色の再現性に関して、被写体の実物の服の色と写真に写った服の色の差を調べるため、次の検討を行った。筆者らが調査地域で着用した実物標本を、被写体撮影時と同条件にて撮影・現像した写真とで視感比色を行った。その結果、現像したプリント写真の色票の色と実物標本とでは、目視で色差は多少生じるものの、比色の際に判別を誤らない程度の差であることを確認した。

3. 結果

3.1. 11年間の経年変化における服装色の全体傾向

1) 無彩色と有彩色の比率

表3-1より3地域トータルの服装色の経年変化における無彩色と有彩色の比率をみると、11年間の平均値では、有彩色(52.9%)、無彩色(47.1%)で有彩色がやや優位ながら、ともに半数程度の出現頻度であったが、経年推移ではゆるやかに増減している。無彩色の割合は、1995年(53.6%)にピークとなり、1996年以降減少がみられ、最も低かった2000年(36.3%)を底にして、再び上昇している。特にブラックは1996年(31.0%)に上昇し、1999年(19.5%)に減少し、2004年(30.6%)に上昇して

おり、約4～5年で循環している。またホワイトは、ほぼ10～15%の範囲でなだらかな増減を繰返し、グレイは1998年に12.9%で突出し、2000年(5.0%)に減少したものの、ほかは8%前後で一定に推移している。このことから、ブラックを基調に無彩色の割合が50%を超えて出現しているときと、有彩色が50%以上、ないしは50%近く出現しているときが交互に約5年ごとに繰返す傾向が伺える。

2) 色系統別割合の経年推移

表3-1および図3-1により、有彩色の推移をみると、どの色系統も出現頻度が一定なものではなく、増減を繰り返しながら推移している。出現率の高いブルーは15%程度を維持しているが、1994年(9.7%)は低く、2000年(17.5%)は高く、2003年(13.8%)は低下し、ほぼ4年～6年ごとに増減を繰返している。次いで平均出現率が11%前後のブラウンでは1997年(14.6%)と2002年(13.0%)との2つのピークを有し、ほぼ5年で増減が一巡している。レッドは、平均5%程度の出現率であるが、他の有彩色と比較して乱高下が激しく、1994年～2001年にかけて約2年おきに高い水準で増減を繰返しているが、2002年以降は急速に減少している。その代わりにピンクが急上昇しており、レッドとピンクは互いに補うような関係で増減が変化している。またパープルは、1996年(1.2%)に対し、2000年(5.9%)の上昇、2004年(2.9%)に再び上昇傾向にあり、周期性は把握できないが、高低差の激しい傾向を示した。

3) トーン別割合の経年推移

表3-1、図3-2によりトーンの経年変化をみると、出現頻度の平均値が12.3%と高い割合のダークが、1994年～1999年の5年間、1997年(17.9%)をピークにゆるやかに上昇・下降している。またビビッドとライトは、1994年と2000年前後にピークがあり、比較的乱高下を示しているが、ほぼ5年～6年で、上昇と下降を繰返している。グレイッシュとダルは、増減の幅が少なくゆるやかに推移している。

4) JCC40における割合の経年推移

JCC40における各色の推移を表3-5に示す。各JCCの色の出現率の11年間の平均値に対して、割合が上まわっているときと、下回っているときが、何年くらいの期間で転換しているかに着目した。11年間の範囲において約5年を周期とした循環傾向がみられる色には、ブラック(26.9%)、ホワイト(11.9%)、ダークブルー(6.3%)、ダルイエローグリーン

(1.2%)、ライトブルー(0.7%)、ダルグリーン(0.4%)、ビビッドグリーン(0.3%)があった。(括弧内は11年間の平均出現率)

3. 2. 原宿の服装色の経年変化における傾向

1) 無彩色と有彩色の経年推移

表3-2より、有彩色と無彩色の割合は、約5年おきに両者が交替している。11年間の平均値は有彩色(55.4%)、無彩色(44.6%)でやや有彩色が優位であり、経年変化をみると、1999年に有彩色の割合は66.4%まで上昇している。2002年以降は再び無彩色が増加しており、有彩色と無彩色が交互に変動している。特に出現率の高い原宿のブラックは、1995年(33.2%)をピークとして1999年(15.5%)に約18ポイント減少し、再び2004年(29.2%)に上昇しており、約5年で割合が変化する傾向がある。

2) 色系統別割合の経年推移

表3-2、図3-1より原宿が3地域中で、ほぼ高い出現を示す色にブルー、レッド、イエローグリーン、グリーンの4色がある。特にブルーは1999年以降、20%前後の出現率であり、原宿の定番色になっている。1997年(18.2%)、2000年(21.6%)をピークに上下しているが、2004年には19.1%になり、さらに上昇しており、4年～5年で変化するサイクルといえる。

一方、レッドは1998年(9.6%)をピークになだらかに低減し、2004年には3.6%で出現率が多少持ち直している。ただし2001年以降、レッドの代わりにピンクが上昇しており、レッドとピンクを総合的に判断すると、約7～10%程度で増減している。

3) トーン別割合の経年推移

表3-2、図3-2より、増減の幅が大きいトーンとして、ビビッド、ダークが挙げられ、ライト、グレイッシュはなだらか、ダルは両者のちょうど中間程度である。いずれのトーンでも11年間の調査年においては、推移の周期は把握できないが、ビビッドとダークとではちょうど増減が拮抗する傾向にある。

4) JCC40別割合の経年推移

表3-6より、約5年で循環傾向にある色は、ブラック(25.7%)、ダークブルー(8.2%)、グレイッシュイエロー(1.5%)、ダルブラウン(1.4%)、ビビッドブルー(1.0%)、ビビッドグリーン(0.6%)、ビビッドブルーグリーン(0.3%)などがあつた。

3. 3. 渋谷の服装色の経年変化における傾向

1) 無彩色と有彩色の経年推移

表3-3より、渋谷における有彩色と無彩色の割合を

みると、原宿同様、約5年で交互に推移している。1994年～1996年では無彩色が50%を越えているが、1997年は逆転し、有彩色は2000年にピーク(70.4%)を迎え、2003年には再び有彩色の割合が減少している。無彩色のなかでも、ブラックは原宿とほぼ同様の推移を示し、5年で増減が変化する傾向にある。

2) 色系統別割合の経年推移

表3-3、図3-1よりピンク、オレンジ、ブルー、ブルーグリーン、パープルなどの起伏が他の2地域より高い傾向にある。渋谷の特徴であるピンクは、1995年(5.4%)、2000年(8.0%)、2004年(6.9%)の3つをピークにして4～5年で小刻みに割合が変化している。またレッドも1994年(8.2%)、1998年(7.6%)、2001年(9.4%)に3つのピークをもち、この2色が前後して増減を繰り返し、3～4年ごとに上下している。同様にオレンジは1998年まで2%に満たない出現率だったが、1999年(2.8%)から上昇、2002年(2.9%)まで高い割合が続いており、これら暖色系の割合の高いのが渋谷の特徴となっている。また、パープルでは、1994年～1998年までは1%～2%台であったが、1999年(5.1%)、2000年(6.6%)と2年連続で上昇し、やがて低下、再び2004年(3.3%)に上昇し、変動が激しい。

3) トーン別割合の経年推移

表3-3、図3-2より、トーンにおいても渋谷の変動は比較的大きい。特にビビッドは2000年(19.8%)のピークと、1996年(4.2%)の底とでは15ポイント以上の差がある。同様に、ライト、ダークも増減の幅が大きい。11年間の調査からは規則的な周期は伺えないが、ライト、ダークともに、2～3年間割合が上昇を続け、再び下降するというなだらかな推移がみられる。一方、グレイッシュは増減の幅が小さい。

4) JCC40における割合の経年推移

表3-7より、約5年で増減が変化する傾向にある色は、ホワイト(12.8%)、ダークブルー(5.8%)、ビビッドブラウン(1.2%)、ダルパープル(0.4%)などが挙げられるが、原宿や銀座と比較すると、小刻みに増減が変化する色が多いことが特徴である。

3. 4. 銀座の服装色の経年変化における傾向

1) 無彩色と有彩色の経年推移

表3-4より銀座の無彩色と有彩色の割合をみると、11年間の平均値は無彩色51.5%、有彩色48.5%で

3地域中、最も無彩色の割合が高く、1994年～1996年を除けば、両者の推移は他の2地域と較べるとなだらかである。無彩色の割合は、1998年(58.4%)、2002年(57.8%)をピークに、4年～5年おきに増減が変化している。無彩色の中でも、ブラックとグレイの出現率が他の2地域よりも高いことが特徴である。

2) 色系統別割合の経年推移

表3-4、図3-1よりブラウンの高い割合が特徴であり、11%～17%台で比較的安定した推移を示しており、俗に“銀座ブラウン・ベージュ”と言われる定番色の存在を裏付けている。その反面、ブルーの出現率は原宿、渋谷に比べ、6～8ポイント程度、低く推移している。また、カラードグレイ(アイボリー)の

割合も3地域で最も高く、2%～13%台まで比較的増減に幅のある出現をしている。

3) トーン別割合の経年推移

表3-4、図3-2より3地域中銀座で最も割合の高いのがグレイッシュであり、約12%程度の割合を保ち安定的に推移している。同様に、次に割合の高いダークは11%程度で推移し、渋谷におけるダークのような急変動はみられない。またビビッドとダルは、原宿、渋谷に比べ、銀座は恒常的に出現頻度が低い。

4) JCC40における割合の経年推移

表3-8より、約5年で増減が変換する傾向のある色には、ダークグレイ(6.7%)、グレイッシュイエロー(1.9%)、ダルイエローグリーン(1.0%)、ビビッドピンク(0.6%)などがあつた。

表3-1 3地域トータルにおける服装色出現頻度の経年変化(%)

	色系統										トーン					カラードグレイ	無彩色			有彩色合計	無彩色合計
	ピンク	レッド	オレンジ	ブラウン	イエロー	イエローグリーン	グリーン	ブルーグリーン	ブルー	パープル	ビビッド	ライト	グレイッシュ	ダル	ダーク		ホワイト	グレイ	ブラック		
1994年	1.8	6.6	1.4	8.4	10.6	1.7	1.8	0.8	9.7	1.9	11.7	11.9	7.2	5.5	8.4	10.8	15.2	7.4	21.9	55.5	44.5
1995年	4.0	4.7	0.5	10.8	3.0	1.3	1.8	0.8	12.2	1.3	5.5	6.9	10.0	7.7	10.1	6.1	13.5	9.3	30.7	46.4	53.6
1996年	2.1	3.7	0.9	11.8	3.0	2.3	2.2	1.2	12.7	1.2	4.7	6.9	9.6	6.6	13.4	5.4	12.8	9.6	31.0	46.6	53.5
1997年	0.9	6.5	0.6	14.6	5.2	2.8	1.4	0.8	13.2	2.6	7.0	4.3	12.8	6.7	17.9	5.0	7.3	8.8	30.2	53.6	46.4
1998年	2.1	7.0	0.8	8.9	4.3	3.2	1.7	0.3	14.5	2.4	6.5	3.6	9.3	8.4	17.3	3.6	10.3	12.9	28.0	48.8	51.2
1999年	3.9	5.3	1.9	9.6	5.7	4.4	2.6	1.4	16.5	4.1	9.8	8.6	11.2	11.9	14.0	6.0	11.1	8.1	19.5	61.4	38.6
2000年	5.5	5.9	1.7	10.7	3.2	4.1	4.2	2.6	17.5	5.9	14.8	8.9	11.8	10.7	15.0	2.6	10.6	5.0	20.7	63.7	36.3
2001年	3.1	7.3	0.8	12.1	4.6	4.2	3.4	1.3	16.3	1.8	13.8	4.5	13.0	12.2	11.5	1.5	10.9	7.4	25.3	56.4	43.6
2002年	3.5	2.8	2.0	13.0	2.9	2.8	2.8	1.3	15.4	1.4	8.5	9.2	9.8	10.5	9.8	2.8	13.8	7.9	27.8	50.5	49.5
2003年	4.4	3.3	1.3	11.6	2.8	2.3	3.0	1.3	13.8	1.6	8.3	7.7	11.8	8.1	9.4	4.3	12.5	8.4	29.5	49.6	50.4
2004年	6.2	2.5	1.3	9.5	2.0	2.1	3.0	1.2	16.5	2.9	8.0	9.3	12.1	9.4	8.4	2.2	12.8	7.2	30.6	49.3	50.7
平均	3.4	5.0	1.2	11.0	4.3	2.8	2.5	1.2	14.4	2.5	8.9	7.4	10.8	8.9	12.3	4.6	11.9	8.4	26.9	52.9	47.1

表3-2 原宿における服装色出現頻度の経年変化(%)

	色系統										トーン					カラードグレイ	無彩色			有彩色合計	無彩色合計
	ピンク	レッド	オレンジ	ブラウン	イエロー	イエローグリーン	グリーン	ブルーグリーン	ブルー	パープル	ビビッド	ライト	グレイッシュ	ダル	ダーク		ホワイト	グレイ	ブラック		
1994年	2.3	7.2	1.1	8.2	10.2	1.1	1.6	1.0	9.7	2.0	12.9	11.6	6.4	5.5	8.1	8.0	14.6	7.0	26.0	52.4	47.6
1995年	3.0	5.3	0.4	11.3	2.7	2.0	2.0	0.7	12.5	1.1	5.8	5.2	9.7	9.1	11.2	4.6	12.1	9.3	33.2	45.4	54.6
1996年	1.9	4.8	1.1	9.3	2.9	2.9	2.5	1.7	16.0	1.0	5.8	6.1	8.9	7.7	15.5	4.7	11.2	8.2	31.9	48.7	51.3
1997年	1.3	8.6	0.6	10.0	4.7	3.0	1.9	0.5	18.2	3.3	6.6	3.8	10.9	7.4	21.3	4.2	7.5	7.2	29.1	56.1	43.9
1998年	3.2	9.6	1.4	6.1	3.3	4.5	2.4	0.1	15.8	2.1	8.8	4.2	7.4	9.3	18.6	3.3	11.4	10.7	26.4	51.6	48.4
1999年	4.9	7.2	2.2	7.7	4.6	5.6	3.1	1.2	20.3	5.1	12.3	6.6	9.3	14.3	19.4	4.5	9.9	8.2	15.5	66.4	33.6
2000年	4.6	6.9	1.3	9.1	2.3	4.4	6.0	2.6	21.6	4.4	14.8	5.9	11.0	12.4	19.0	2.3	9.4	6.9	18.3	65.5	34.5
2001年	2.6	6.6	0.5	8.9	4.3	5.0	4.6	1.5	21.1	1.7	12.7	3.9	10.7	14.4	15.1	1.4	9.3	8.9	23.7	58.2	41.8
2002年	3.8	3.4	1.0	10.3	3.5	3.5	4.0	1.7	19.4	2.3	11.1	8.4	10.5	12.4	10.4	2.8	12.5	10.2	21.7	55.5	44.5
2003年	5.1	2.8	1.0	9.1	3.1	3.5	5.6	1.8	17.3	2.4	10.8	7.1	11.3	10.3	12.1	4.7	6.6	9.0	28.0	56.3	43.7
2004年	4.6	3.6	0.8	7.7	2.4	2.7	4.5	1.4	19.1	3.5	10.0	7.6	14.2	9.1	9.3	2.8	8.9	8.8	29.2	53.1	46.9
平均	3.4	6.0	1.0	8.9	4.0	3.5	3.5	1.3	17.4	2.6	10.3	6.4	10.0	10.2	14.5	3.9	10.3	8.6	25.7	55.4	44.6

表3-3 渋谷における服装色出現頻度の経年変化(%)

	色系統										トーン					カラードグレイ	無彩色			有彩色合計	無彩色合計
	ピンク	レッド	オレンジ	ブラウン	イエロー	イエローグリーン	グリーン	ブルーグリーン	ブルー	パープル	ビビッド	ライト	グレイッシュ	ダル	ダーク		ホワイト	グレイ	ブラック		
1994年	1.5	8.2	1.4	5.8	6.5	2.3	1.2	1.1	8.9	1.1	10.5	8.3	4.9	4.8	9.5	11.5	17.8	8.1	24.7	49.4	50.6
1995年	5.4	4.6	0.4	7.6	2.5	1.1	2.3	0.8	12.8	1.0	4.7	9.0	8.2	7.9	8.7	5.7	13.6	8.8	33.3	44.3	55.7
1996年	2.1	3.2	0.6	10.4	2.7	2.2	2.1	1.4	10.8	1.2	4.2	7.3	8.0	6.3	11.0	5.2	14.8	10.5	32.8	41.9	58.1
1997年	0.4	7.5	0.4	17.3	5.4	3.1	1.6	0.5	14.1	2.5	8.1	3.2	14.0	7.4	20.1	4.0	6.1	6.9	30.4	56.7	43.3
1998年	2.4	7.6	0.5	6.9	4.6	3.1	1.6	0.3	19.4	2.2	7.0	3.5	8.9	10.0	19.1	3.3	10.1	10.9	27.2	51.9	48.1
1999年	4.4	5.7	2.8	9.6	6.8	3.7	2.4	2.5	19.4	5.1	12.9	13.4	10.8	14.6	10.6	5.4	11.5	5.3	15.6	67.7	32.3
2000年	8.0	6.5	2.9	11.9	3.9	3.2	2.9	3.4	19.5	6.6	19.8	12.6	11.3	12.2	12.9	1.5	10.1	2.7	16.8	70.4	29.6
2001年	4.3	9.4	1.6	11.3	5.2	4.6	2.8	1.7	18.6	2.0	18.7	5.8	13.8	13.2	10.1	0.9	11.0	6.2	20.4	62.5	37.5
2002年	3.6	2.9	2.9	14.8	2.4	2.1	2.4	1.5	17.1	0.7	8.3	10.9	9.3	12.7	9.1	2.4	14.1	7.3	26.1	52.6	47.4
2003年	5.0	3.9	1.0	12.7	3.9	1.6	1.1	1.9	13.7	0.9	7.8	9.8	12.0	7.8	8.3	2.5	17.2	7.1	27.4	48.3	51.7
2004年	6.9	1.5	1.3	8.5	1.3	1.7	2.4	1.4	18.2	3.3	9.0	11.2	9.3	9.8	7.1	1.4	14.3	5.4	32.6	47.8	52.2
平均	4.0	5.5	1.4	10.6	4.1	2.6	2.1	1.5	15.7	2.4	10.1	8.6	10.1	9.7	11.5	4.0	12.8	7.2	26.1	53.9	46.1

表3-4 銀座における服装色出現頻度の経年変化(%)

	色系統										トーン					カラードグレイ	無彩色			有彩色合計	無彩色合計
	ピンク	レッド	オレンジ	ブラウン	イエロー	イエローグリーン	グリーン	ブルーグリーン	ブルー	パープル	ビビッド	ライト	グレイッシュ	ダル	ダーク		ホワイト	グレイ	ブラック		
1994年	1.6	4.7	1.7	10.9	13.7	1.7	2.2	0.3	10.5	2.4	11.2	15.4	8.9	6.8	7.1	13.6	13.6	8.2	15.3	63.0	37.0
1995年	3.3	3.9	0.6	14.5	4.1	0.8	0.8	0.8	11.2	1.9	5.7	6.3	12.8	6.1	11.0	8.5	14.8	10.2	24.7	50.3	49.7
1996年	2.3	3.0	1.1	16.8	3.6	1.8	2.1	0.7	11.0	1.4	4.0	7.2	12.4	5.8	14.3	6.5	12.1	10.3	27.4	50.2	49.8
1997年	1.0	3.0	0.9	16.7	5.8	2.4	0.7	1.2	6.2	2.1	4.3	6.0	13.9	5.0	10.7	7.0	8.1	12.9	32.2	46.8	53.2
1998年	0.6	3.3	0.5	14.4	5.0	1.8	0.7	0.5	7.6	3.0	3.3	3.0	11.8	5.7	13.7	4.2	9.4	18.0	31.1	41.7	58.4
1999年	2.2	2.4	0.7	11.9	5.5	3.6	2.4	0.3	8.8	2.0	3.5	6.1	13.6	5.4	11.0	8.4	11.8	11.2	29.0	48.0	52.0
2000年	3.5	4.5	0.9	12.3	3.1	4.1	2.7	2.0	9.8	6.5	9.8	7.5	13.3	7.3	11.4	3.8	12.5	4.9	29.5	53.1	46.9
2001年	2.2	5.7	0.2	17.0	4.0	2.9	2.7	0.7	7.8	1.9	9.0	3.9	14.3	8.6	9.2	2.1	12.1	8.1	32.8	47.2	52.9
2002年	2.8	1.9	1.8	12.6	3.1	2.9	2.1	0.9	9.3	1.0	5.3	7.5	9.3	6.4	9.8	3.9	15.0	6.3	36.5	42.2	57.8
2003年	3.2	3.2	2.0	12.6	1.3	1.7	1.8	0.3	9.7	1.3	6.2	6.2	11.8	5.9	7.2	6.3	13.6	9.3	33.6	43.6	56.4
2004年	7.0	2.6	1.9	12.6	2.3	2.0	2.2	0.7	12.0	1.7	4.9	8.8	12.9	9.2	9.2	2.5	15.1	7.7	29.8	47.5	52.5
平均	2.7	3.5	1.1	13.9	4.7	2.3	1.9	0.8	9.5	2.3	6.1	7.1	12.3	6.6	10.4	6.1	12.5	9.7	29.3	48.5	51.5

渡辺ほか：ストリートファッションにおける女性服装色の変遷に関する研究(1)

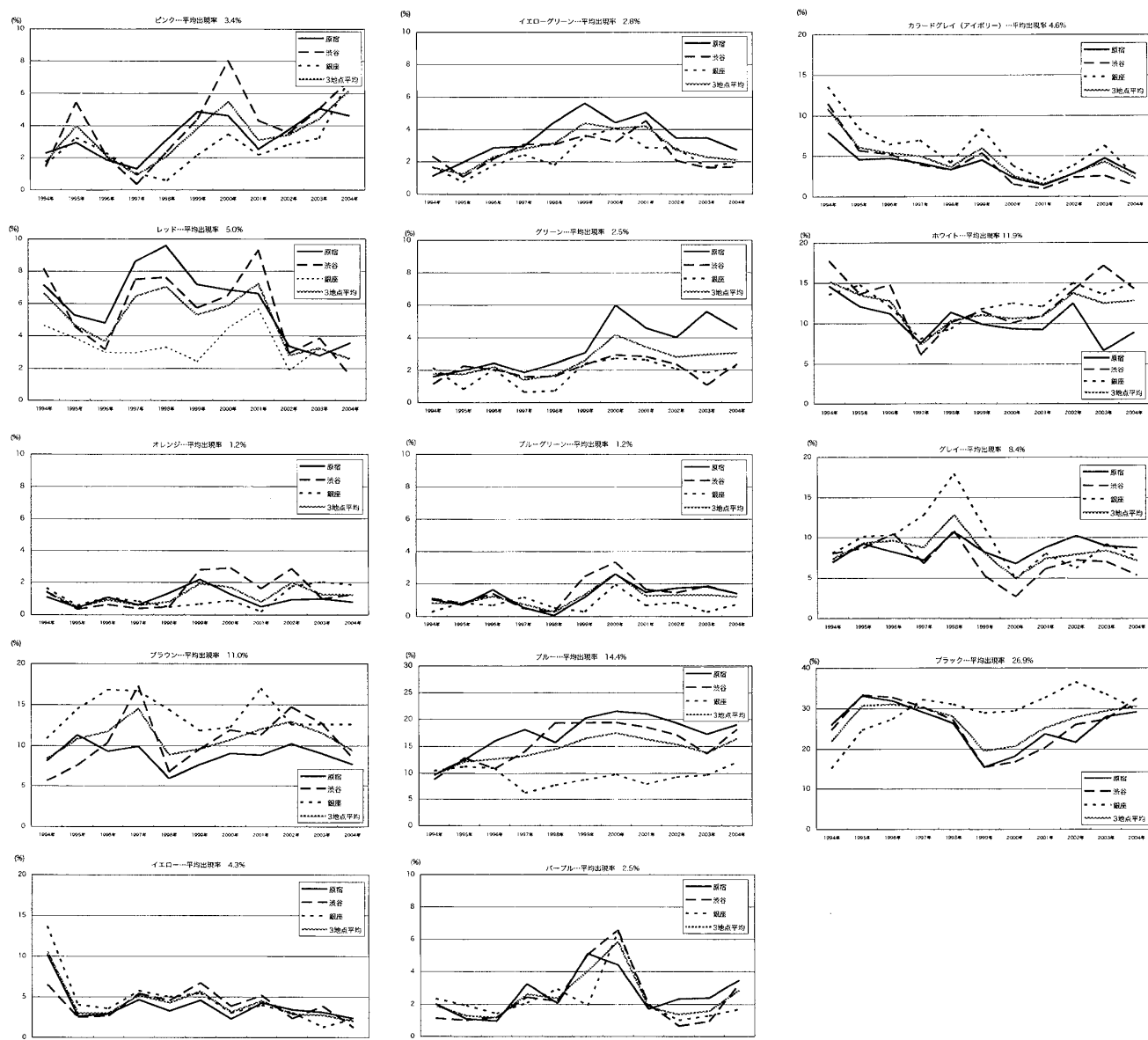


図3-1 経年変化における地域別の色系統の出現頻度

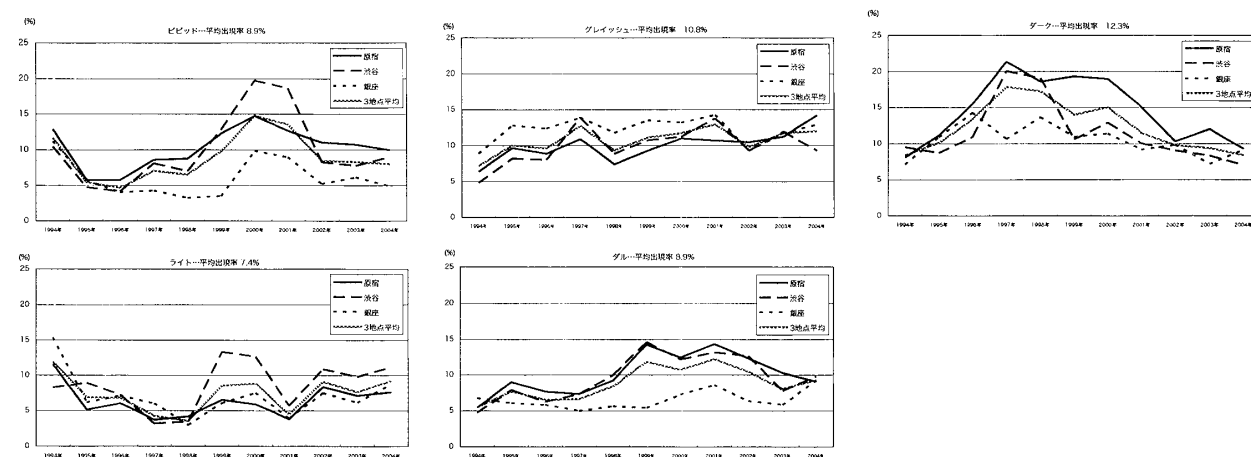


図3-2 経年変化における地域別のトーンの出現頻度

表3-5 3地域トータルのJCC40における服装色出現頻度の経年変化 (%)

	PINK系			RED系			ORANGE系			BROWN系			YELLOW系			YELLOW GREEN系			GREEN系			BLUE GREEN系			BLUE系			PURPLE系			CG系	NEUTRAL系									
	PK1	PK2	PK3	RE1	RE4	RE5	OR1	OR2	OR3	BR1	BR3	BR4	BR5	YE1	YE2	YE3	YG1	YG3	YG4	YG5	GN1	GN2	GN3	GN4	GN5	BG1	BG4	BL1	BL2	BL3	BL4	BL5	PU1	PU2	PU3	PU4	CG1	NE2	NE3	NE4	NE5
1994年	0.2	1.6	0.0	4.8	0.3	1.5	0.7	0.8	1.8	3.3	2.4	0.8	0.9	8.3	0.3	0.2	0.5	0.4	0.6	0.1	0.5	0.8	0.1	0.3	0.2	0.6	1.1	0.9	1.0	1.7	5.1	1.8	0.0	0.1	0.1	10.8	15.2	3.3	4.1	21.9	
1995年	0.4	2.4	1.2	2.9	0.9	0.9	0.2	0.3	1.0	5.8	1.0	3.1	0.8	1.3	0.9	0.0	0.2	0.4	0.6	0.1	0.1	0.7	0.2	0.7	0.1	0.7	0.0	2.6	1.1	3.6	4.8	0.1	0.1	0.2	0.9	6.1	13.5	3.1	6.3	30.7	
1996年	0.1	1.4	0.6	1.8	0.3	1.5	0.3	0.6	1.1	4.6	0.6	5.4	0.7	1.4	0.9	0.3	0.8	0.6	0.7	0.0	0.5	1.0	0.3	0.4	0.0	1.2	0.2	2.8	1.3	3.1	5.4	0.1	0.1	0.4	0.6	5.4	12.8	3.3	6.4	31.0	
1997年	0.1	0.3	0.5	3.1	0.4	2.9	0.3	0.3	1.0	6.7	1.1	5.8	0.7	1.9	2.6	0.5	0.6	1.2	0.5	0.0	0.1	0.5	0.1	0.5	0.0	0.8	0.3	1.6	1.0	2.2	8.1	1.0	0.0	0.8	0.9	5.0	7.3	2.0	6.8	30.2	
1998年	0.5	1.0	0.6	3.3	1.2	2.5	0.6	0.2	0.7	3.5	1.0	3.6	0.5	1.2	2.6	0.1	0.6	1.6	0.8	0.0	0.0	0.6	0.2	0.8	0.0	0.3	0.3	1.0	0.9	2.9	0.5	0.4	0.3	0.4	1.3	3.6	10.3	3.0	9.8	28.0	
1999年	1.6	1.4	0.9	2.7	1.5	1.1	1.5	0.4	0.7	4.8	1.4	2.8	0.7	2.5	2.6	0.5	0.3	2.3	1.3	0.1	0.5	1.0	0.3	0.7	0.1	1.3	0.6	2.4	1.1	4.2	8.2	1.4	1.4	0.5	0.9	6.0	11.0	2.2	5.9	19.5	
2000年	2.7	2.1	0.7	3.4	1.5	1.0	1.2	0.5	1.5	5.2	1.7	2.4	0.8	1.0	1.4	0.5	1.2	1.3	1.1	0.9	0.7	0.8	0.5	1.3	0.7	1.9	1.1	2.4	1.3	3.4	9.3	2.0	2.1	1.3	0.5	2.5	10.6	2.1	2.9	20.7	
2001年	1.4	1.2	0.5	5.7	0.8	0.8	0.6	0.2	1.3	6.1	2.6	2.0	1.0	0.9	2.6	0.3	0.9	2.1	0.9	1.1	0.4	0.5	0.7	0.6	0.7	0.9	1.2	1.9	5.3	7.1	0.7	0.6	0.5	0.0	1.5	10.9	2.8	4.7	25.3		
2002年	0.8	1.9	0.8	1.9	0.5	0.4	0.6	1.6	1.9	4.4	3.2	3.5	1.0	0.8	1.0	0.1	0.4	1.1	1.2	0.5	0.2	0.8	0.6	0.7	0.4	1.0	0.6	4.4	2.2	4.1	4.1	0.8	0.3	0.2	0.1	2.8	13.8	2.3	5.6	27.8	
2003年	1.4	2.3	0.7	2.1	0.4	0.8	0.4	0.8	1.0	6.7	1.2	2.7	0.7	1.2	0.9	0.2	0.4	0.9	0.8	0.5	0.4	0.6	0.4	1.1	0.2	1.2	1.3	2.7	2.3	3.4	4.0	0.5	0.2	0.3	0.6	4.3	12.5	2.0	6.5	29.5	
2004年	1.4	3.6	1.2	1.5	0.4	0.6	0.4	0.8	0.8	5.2	0.9	2.6	0.7	0.7	0.7	0.2	0.3	0.6	0.7	0.4	0.4	1.0	0.7	0.5	0.3	0.9	0.9	3.3	3.3	4.9	4.0	1.4	0.5	0.3	0.7	2.2	12.8	2.5	4.7	30.6	
平均	1.0	1.7	0.7	3.0	0.8	1.3	0.6	0.6	1.2	5.1	1.5	3.1	0.8	1.9	1.6	0.3	0.6	1.2	0.8	0.3	0.4	0.8	0.4	0.7	0.2	0.9	0.7	2.3	1.6	3.5	6.3	0.9	0.5	0.4	0.6	4.6	11.9	2.6	5.8	26.9	

表3-6 原宿のJCC40における服装色出現頻度の経年変化 (%)

	PINK系			RED系			ORANGE系			BROWN系			YELLOW系			YELLOW GREEN系			GREEN系			BLUE GREEN系		BLUE系					PURPLE系			CG系	NEUTRAL系								
	PK1	PK2	PK3	RE1	RE4	RE5	OR1	OR2	OR3	BR1	BR3	BR4	BR5	YE1	YE2	YE3	YG1	YG3	YG4	YG5	GN1	GN2	GN3	GN4	GN5	BG1	BG4	BL1	BL2	BL3	BL4	BL5	PU1	PU2	PU3	PU4	CG1	NE2	NE3	NE4	NE5
1994年	0.1	2.2	0.0	5.5	0.3	1.4	0.8	0.4	1.6	3.1	2.4	1.0	1.2	7.8	1.1	0.1	0.5	0.1	0.3	0.1	0.4	0.5	0.2	0.4	0.1	0.9	1.4	0.8	1.1	1.5	4.9	1.9	0.0	0.0	0.1	7.9	14.6	2.9	4.1	26.0	
1995年	0.2	1.6	1.2	3.1	0.9	1.2	0.1	0.3	1.2	5.8	0.8	3.5	0.7	1.2	0.7	0.0	0.3	0.7	1.0	0.1	0.0	0.8	0.3	0.7	0.1	0.5	0.0	2.1	0.8	4.8	4.9	0.1	0.1	0.1	0.8	4.6	12.1	2.7	6.6	33.2	
1996年	0.0	0.9	1.0	2.8	0.3	1.6	0.4	0.5	0.8	3.8	0.4	4.3	0.8	1.4	0.7	0.4	0.6	0.6	1.1	0.0	0.1	1.1	0.4	0.9	0.1	1.6	0.3	3.0	1.3	3.7	7.6	0.1	0.0	0.1	0.7	4.7	11.2	2.5	5.8	31.9	
1997年	0.3	0.4	0.6	4.0	0.7	3.9	0.5	0.1	0.5	6.2	0.8	3.4	1.1	1.4	2.2	0.4	0.5	1.3	0.8	0.0	0.0	0.2	0.5	0.2	0.8	0.0	0.4	1.5	1.4	2.7	12.3	1.5	0.1	0.5	1.2	4.2	7.5	1.6	5.7	29.1	
1998年	0.5	1.5	1.2	5.0	1.7	2.9	1.1	0.3	0.6	2.3	0.9	2.3	0.6	1.0	1.7	0.2	0.6	2.3	1.3	0.0	0.0	0.7	0.1	1.6	0.1	1.6	0.1	0.0	3.0	1.0	0.6	3.4	10.5	0.4	0.3	0.9	5.3	11.4	2.9	7.8	26.4
1999年	2.1	1.4	1.4	3.2	2.6	1.4	1.8	0.4	1.1	2.8	1.3	2.5	0.6	1.5	2.5	0.1	0.4	3.1	2.0	0.2	0.2	1.1	0.6	1.0	0.1	1.0	0.7	1.5	0.6	4.9	12.5	2.4	1.5	0.5	0.8	4.5	9.9	2.6	5.6	15.5	
2000年	2.1	1.8	0.7	3.7	2.1	1.1	1.0	0.3	1.0	4.4	1.6	2.1	0.4	0.5	1.4	0.3	1.2	1.1	1.9	1.5	0.1	1.2	1.1	1.1	1.5	1.1	2.5	1.4	4.7	11.9	2.7	0.8	0.7	0.3	2.3	9.3	2.7	4.1	18.3		
2001年	1.5	0.6	0.5	4.4	1.2	1.1	0.5	0.0	1.2	4.2	2.2	1.3	1.0	2.3	0.2	1.3	2.3	1.4	1.3	0.4	1.5	1.0	0.6	0.9	1.1	1.3	2.0	6.3	10.4	1.1	0.5	0.2	0.0	1.4	9.2	3.5	5.3	23.7			
2002年	0.8	2.1	0.9	2.5	0.6	0.2	0.3	0.6	1.7	3.5	2.6	2.4	1.5	0.8	1.2	0.1	0.5	1.2	1.7	1.1	0.2	1.1	0.6	1.0	0.5	1.2	1.2	4.3	3.1	5.9	4.9	1.5	0.5	0.2	0.2	2.8	12.5	3.1	7.2	21.7	
2003年	1.6	2.2	1.2	1.7	0.4	0.7	0.3	0.7	0.6	5.0	1.4	2.1	1.1	0.8	1.2	0.2	0.5	1.4	1.4	1.2	0.5	0.9	1.0	2.1	0.4	1.4	2.9	2.7	2.1	3.7	5.8	0.8	0.3	0.4	1.0	4.7	6.6	2.0	7.0	28.0	
2004年	1.1	2.3	1.2	2.3	0.6	0.6	0.4	0.3	0.3	4.7	1.5	2.2	0.8	0.5	1.0	0.5	0.6	0.8	0.9	0.7	0.8	1.5	0.9	0.8	0.4	1.0	1.5	3.2	4.7	4.8	4.8	1.9	0.5	0.5	0.6	2.8	8.9	3.3	5.5	29.2	
平均	0.9	1.5	0.9	3.5	1.0	1.5	0.7	0.4	1.0	4.1	1.4	2.5	0.9	1.6	1.5	0.2	0.6	1.4	1.3	0.6	0.3	0.9	0.6	1.1	0.3	1.0	1.0	2.2	1.7	4.2	8.2	1.3	0.4	0.3	0.6	3.9	10.3	2.7	5.9	25.7	

表3-7 渋谷のJCC40における服装色出現頻度の経年変化 (%)

	PINK系			RED系			ORANGE系			BROWN系			YELLOW系			YELLOW GREEN系			GREEN系			BLUE GREEN系			BLUE系			PURPLE系			CG系	NEUTRAL系								
	PK1	PK2	PK3	RE1	RE4	RE5	OR1	OR2	OR3	BR1	BR3	BR4	BR5	YE1	YE2	YE3	YG1	YG3	YG4	YG5	GN1	GN2	GN3	GN4	GN5	BG1	BG4	BL1	BL2	BL3		BL4	BL5	PU1	PU2	PU3	PU4	CG1	NE2	NE3
1994年	0.2	1.2	0.1	6.2	0.4	1.6	0.4	1.0	1.0	2.1	1.3	1.4	0.1	5.4	0.9	0.0	0.3	1.0	1.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.5	0.4	0.7	1.1	0.5	1.0	1.4	4.9	1.0	0.0	0.1	0.0	11.5	17.8	4.0	4.0	24.7
1995年	0.4	3.8	1.3	2.8	0.9	0.9	0.2	0.2	0.9	3.1	1.0	2.6	0.5	1.2	0.8	0.0	0.2	0.2	0.6	0.0	0.3	0.7	0.3	1.0	0.0	0.8	0.0	3.4	1.8	4.0	3.5	0.0	0.1	0.3	0.6	5.7	13.6	2.8	6.0	33.3
1996年	0.0	1.8	0.3	1.4	0.3	1.4	0.3	0.3	0.3	0.6	5.0	0.7	1.3	0.7	0.3	0.8	0.4	0.7	0.0	0.7	0.8	0.2	0.3	0.0	1.4	0.2	2.9	1.4	2.8	3.5	0.2	0.1	0.4	0.5	5.2	14.8	3.7	6.8	32.8	
1997年	0.0	0.2	0.2	3.7	0.2	3.6	0.3	0.1	0.8	7.8	1.1	7.7	0.8	1.8	2.9	0.8	0.6	1.3	0.4	0.1	0.1	0.5	0.1	0.7	0.0	0.5	0.5	1.1	1.2	3.6	7.7	1.1	0.0	0.8	0.5	4.0	6.1	1.4	5.5	30.4
1998年	0.9	1.2	0.3	3.5	1.3	2.8	0.4	0.1	0.5	3.0	0.5	2.9	0.8	1.1	2.7	0.0	0.5	2.0	0.6	0.1	0.0	0.7	0.3	0.6	0.0	0.3	0.4	0.8	1.3	4.6	12.3	0.3	0.4	0.4	1.1	3.3	10.1	2.4	8.4	27.2
2000年	4.5	2.6	1.0	4.0	1.9	0.5	2.2	0.9	0.6	5.7	2.4	2.3	1.1	4.9	1.7	1.1	0.1	1.6	0.7	0.1	1.2	0.6	0.1	0.4	0.1	2.4	1.0	3.4	2.3	6.1	6.6	1.1	2.4	0.8	0.8	5.4	11.5	1.6	3.6	15.6
2001年	1.7	2.1	0.6	8.4	0.4	0.5	1.2	0.5	5.3	2.5	2.1	1.6	0.7	3.0	3.0	0.5	0.9	2.4	0.7	1.0	0.4	0.6	0.3	0.5	1.0	0.7	0.9	1.1	3.0	6.9	4.3	0.9	0.3	0.1	0.0	0.9	1.0	0.9	2.5	16.5
2002年	0.9	1.7	1.0	1.9	0.6	0.4	0.5	2.4	2.3	4.2	4.3	4.0	1.0	0.4	1.0	0.1	1.2	0.6	0.5	0.1	0.7	0.5	0.6	0.4	1.1	0.4	6.1	2.2	5.0	3.4	0.3	0.2	0.1	0.0	2.4	4.1	1.5	5.2	26.1	
2003年	1.5	3.1	0.5	2.4	0.6	0.9	0.6	0.4	1.4	7.1	0.9	3.3	0.7	2.2	1.0	0.2	0.3	0.5	0.6	0.1	0.3	0.3	0.1	0.3	1.8	0.5	3.5	2.7	3.2	0.4	0.2	0.3	0.2	2.5	17.2	1.2	5.9	27.4		
2004年	2.3	4.2	0.4	1.3	0.1	0.2	0.5	1.8	1.5	4.0	1.0	2.0	0.4	0.6	0.3	0.2	0.1	0.9	0.5	0.4	0.2	0.8	0.6	0.4	0.1	1.3	0.7	4.9	3.5	5.2	4.0	1.7	0.6	0.2	0.8	1.4	14.3	1.4	3.9	32.6
平均	1.3	2.1	0.6	3.6	0.7	1.2	0.8	0.6	1.2	4.6	1.6	3.2	0.8	1.8	1.4	0.4	0.5	1.1	0.7	0.3	0.4	0.6	0.2	0.5	0.3	1.2	0.7	2.8	2.0	4.3	5.8	0.9	0.7	0.5	0.4	4.0	12.8	2.2	4.9	29.6

渡辺ほか：ストリートファッションにおける女性服装色の変遷に関する研究(1)

ンク×ブルーグリーン(0.684)、ピンク×グリーン(0.608)の対照色系統、レッド×イエロー(0.800)の中差色系統、以上10つである。渋谷では、ブルーを中心として、レッド、オレンジ、イエロー、パープルなどが同調しており、同調色の数も多い。

銀座ではブルー×ピンク(0.717)の中差色系統、ブルーグリーン×パープル(0.741)、イエローグリーン×グリーン(0.610)の類似色系統、カラードグレイ(アイボリー)×イエロー(0.786)、ホワイト×ブルー(0.825)、ホワイト×ピンク(0.702)の無彩色との組み合わせなど、合わせて7つが同調している。

2) トーンにおける同調色

表4-2より、出現頻度が同調の関係にあるトーンの組み合わせで高い正の相関があったのは、渋谷でのビビッド×ダル(0.606)のみであり、トーンでの同調の関係は数少ない結果であった。

3) JCC40における同調色

表4-3より、3地域トータルでの高い正の相関のあった組み合わせは、ダークブルー×ダルレッド、ダー

クブルー×グレイッシュイエローなどの対照色系統やビビッドブルー×ビビッドピンクの中差色系統。またグレイッシュブラウン×ビビッドイエロー、ライトピンク×グレイッシュピンク、グレイッシュレッド×ビビッドオレンジ、ビビッドピンク×ライトパープルなどの同一ないしは類似色系統どうしなど、合計63の組み合わせに高い相関がみられた。

4.2. 服装色における相反色

1) 色系統における相反色

表3-1および図3-1より1994年～2003年において、ブラックとブルーは一方が増加すると、他方は減少する関係がみられ、両者を合計すると全体の約4割となった。ブルーとブラックの相関係数は原宿(-0.575)、渋谷(-0.523)、銀座(-0.428)であり、統計学的に高い相関ではないが、相反の関係は認められる。

表4-1より、高い負の相関があり相反している色は、3地域トータルでみた場合、ブラック×オレンジ(-0.627)、ブラック×パープル(-0.660)、ブラック×イエローグリーン(-0.616)、グレイ×グリーン(-0.715)、グレイ×ブルーグリーン(-0.812)、カラードグレイ(アイボリー)×ブルー(-0.833)、カラードグレイ(アイボリー)×グリーン(-0.613)の7つであり、すべて無彩色あるいはカラードグレイ(アイボリー)との組み合わせであった。

地域別にみても、原宿ではブラック×オレンジ(-0.690)、ブラック×イエローグリーン(-0.696)、ブラック×パープル(-0.737)、ホワイト×ブルー(-0.630)、カラードグレイ(アイボリー)×グリーン(-0.608)、カラードグレイ(アイボリー)×ブルー(-0.826)、カラードグレイ(アイボリー)×イエローグ

表4-1 各色系統の出現率の相互関係

(※※1%有意 ※5%有意)

		ピンク	レッド	オレンジ	ブラウン	イエロー	イエローグリーン	グリーン	ブルーグリーン	ブルー	パープル	カラードグレイ(アイボリー)	ホワイト	グレイ	ブラック
ピンク	3地点	1.000													
	原宿	1.000													
	渋谷	1.000													
	銀座	1.000													
レッド	3地点	-0.526	1.000												
	原宿	-0.432	1.000												
	渋谷	-0.359	1.000												
	銀座	-0.186	1.000												
オレンジ	3地点	0.391	-0.324	1.000											
	原宿	0.462	0.254	1.000											
	渋谷	0.442	-0.044	1.000											
	銀座	0.478	-0.432	1.000											
ブラウン	3地点	-0.266	-0.125	-0.210	1.000										
	原宿	-0.250	-0.415	-0.568	1.000										
	渋谷	-0.130	-0.073	0.176	1.000										
	銀座	-0.301	0.185	-0.554	1.000										
イエロー	3地点	-0.565	0.605	0.091	-0.346	1.000									
	原宿	-0.375	0.335	0.124	-0.173	1.000									
	渋谷	-0.440	0.800	0.142	-0.052	1.000									
	銀座	-0.475	0.323	-0.029	-0.272	1.000									
イエローグリーン	3地点	0.094	0.412	0.360	0.097	-0.032	1.000								
	原宿	0.410	0.249	0.502	-0.370	-0.389	1.000								
	渋谷	-0.127	0.726	0.346	0.180	0.649	1.000								
	銀座	-0.020	0.027	-0.197	-0.169	-0.135	1.000								
グリーン	3地点	0.737	-0.199	0.515	0.005	-0.397	0.536	1.000							
	原宿	0.716	-0.475	0.026	-0.029	-0.489	0.463	1.000							
	渋谷	0.608	-0.077	0.538	0.102	-0.285	0.360	1.000							
	銀座	0.390	0.231	0.203	-0.348	-0.051	0.610	1.000							
ブルーグリーン	3地点	0.620	-0.213	0.565	0.116	-0.302	0.453	0.878	1.000						
	原宿	0.479	-0.571	0.081	0.254	-0.257	0.181	0.789	1.000						
	渋谷	0.684	-0.107	0.783	0.137	0.057	0.257	0.527	1.000						
	銀座	0.153	0.154	0.208	0.146	-0.291	0.488	0.063	1.000						
ブルー	3地点	0.624	-0.112	0.397	0.084	-0.552	0.753	0.757	0.583	1.000					
	原宿	0.430	0.090	0.184	-0.066	-0.559	0.796	0.698	0.497	1.000					
	渋谷	0.506	0.064	0.498	0.132	-0.028	0.522	0.616	0.367	1.000					
	銀座	0.717	-0.077	0.495	-0.407	-0.081	-0.352	0.324	-0.093	1.000					
パープル	3地点	0.426	0.254	0.432	0.214	0.003	0.626	0.523	0.649	0.606	1.000				
	原宿	0.582	0.187	0.620	-0.305	-0.063	0.502	0.260	0.582	1.000					
	渋谷	0.529	0.149	0.544	0.032	0.224	0.470	0.527	0.692	0.625	1.000				
	銀座	-0.022	0.420	-0.295	-0.208	0.036	0.532	0.210	0.741	-0.064	1.000				
カラードグレイ(アイボリー)	3地点	-0.477	0.205	0.014	-0.355	0.784	-0.475	-0.613	-0.362	-0.833	-0.208	1.000			
	原宿	-0.255	0.068	0.194	-0.001	0.722	-0.646	-0.608	-0.287	-0.826	-0.187	1.000			
	渋谷	-0.524	0.228	-0.200	-0.483	0.454	-0.230	-0.542	-0.283	-0.735	-0.283	1.000			
	銀座	-0.378	0.068	0.144	-0.345	0.786	-0.353	-0.189	-0.393	0.145	-0.128	1.000			
ホワイト	3地点	0.235	-0.463	0.308	-0.459	0.148	0.579	0.024	-0.011	-0.396	-0.427	0.404	1.000		
	原宿	-0.312	0.134	0.076	-0.001	0.503	0.430	-0.549	-0.226	-0.630	-0.390	0.452	1.000		
	渋谷	0.117	-0.440	0.012	-0.452	-0.242	-0.600	-0.351	0.074	-0.532	-0.483	0.403	1.000		
	銀座	0.702	-0.057	0.553	-0.506	-0.152	-0.198	0.439	-0.136	0.825	-0.209	0.012	1.000		
グレイ	3地点	-0.526	0.140	-0.520	-0.089	-0.049	0.231	-0.715	-0.812	-0.342	-0.507	0.100	-0.011	1.000	
	原宿	0.178	-0.212	-0.090	-0.145	-0.419	0.209	0.023	-0.327	0.019	-0.380	-0.348	-0.098	1.000	
	渋谷	-0.648	-0.019	-0.693	-0.319	-0.097	-0.312	-0.524	-0.777	-0.487	-0.738	0.385	0.356	1.000	
	銀座	-0.569	-0.196	-0.426	0.351	0.115	-0.359	-0.742	-0.356	0.491	-0.189	0.108	-0.300	1.000	
ブラック	3地点	-0.104	-0.460	-0.627	0.405	-0.546	-0.616	-0.390	-0.455	-0.267	-0.660	-0.227	-0.152	0.486	1.000
	原宿	-0.504	-0.219	-0.690	-0.303	-0.109	-0.696	-0.403	-0.380	0.575	-0.737	0.256	0.142	0.156	1.000
	渋谷	-0.272	-0.488	-0.784	-0.039	-0.621	-0.719	-0.372	-0.709	-0.523	-0.654	0.089	0.196	0.611	1.000
	銀座	0.098	-0.384	-0.029	0.318	-0.802	0.355	0.021	-0.226	-0.428	-0.136	-0.798	-0.747	0.037	1.000

表4-2 各トーンの出現率の相互関係

(※※1%有意 ※5%有意)

		ビビッド	ライト	グレイッシュ	ダル	ダーク
ビビッド	3地点	1.000				
	原宿	1.000				
	渋谷	1.000				
	銀座	1.000				
ライト	3地点	0.300	1.000			
	原宿	0.328	1.000			
	渋谷	0.288	1.000			
	銀座	0.563	1.000			
グレイッシュ	3地点	0.222	-0.443	1.000		
	原宿	0.072	-0.203	1.000		
	渋谷	0.437	-0.162	1.000		
	銀座	-0.246	-0.632	1.000		
ダル	3地点	0.525	-0.089	0.526	1.000	
	原宿	0.490	-0.311	0.318	1.000	
	渋谷	0.606	0.411	0.474	1.000	
	銀座	0.466	0.182	0.114	1.000	
ダーク	3地点	-0.088	-0.666	0.239	0.038	1.000
	原宿	0.033	-0.717	-0.309	0.279	1.000
	渋谷	-0.034	-0.679	-0.034	-0.062	1.000
	銀座	-0.556	-0.505	0.312	-0.352	1.000

リーン(-0.646)の7つが該当しており、ブラック、ホワイトの無彩色とカラードグレイ(アイボリー)との相反色であった。

渋谷ではブラック×オレンジ(-0.784)、ブラック×イエロー(-0.621)、ブラック×イエローグリーン(-0.719)、ブラック×ブルーグリーン(-0.709)、ブラック×パープル(-0.645)、グレイ×ピンク(-0.648)、グレイ×オレンジ(-0.693)、グレイ×ブルーグリーン(-0.777)、グレイ×パープル(-0.738)、カラードグレイ(アイボリー)×ブルー(-0.735)の10の組み合わせが該当した。渋谷は同調色も多いが、無彩色との相反色も多く、好みが明確である。

銀座では、ブラック×ホワイト(-0.747)、ブラック×イエロー(-0.802)、ブラック×カラードグレイ(アイボリー)(-0.798)、グレイ×グリーン(-0.742)の4つであった。銀座はブラックとホワイトが相反することと、同調色に加え、相反色の数も少ない点が特徴である。

2) トーンにおける相反色

3地域を合わせた結果では、ダーク×ライト(-0.666)があった。地域別にみえていくと、原宿ではダーク×ライト(-0.717)、渋谷でもダーク×ライト(-0.679)のみであり、銀座ではグレイッシュ×ライト(-0.632)があげられた。

3) JCC40における相反色

3地域トータルの結果では、ブラック×ビビッドオレンジ、ホワイト×ダークレッド、ホワイト×ダークブルー、カラードグレイ(アイボリー)×ダルグリーン

などの無彩色と有彩色の組み合わせが多い。さらにダルブルー×ライトイエロー、ビビッドブラウン×ダルパープル、ビビッドイエロー×ダルパープルなど、中差～対照色系統どうしのもなど、合計34の組み合わせが高い相反関係にあった。

5. 服装色における周期性の検討

5.1 色彩の周期論に関する既存研究との照合

これまでの結果から、服装色の出現頻度は経年によって変化するという事実は確認できた。そこで、この変化に何らかの規則性や周期性が存在するかどうか、従来の周期論と本調査で行った11年間のデータとを照らし合わせることで検討を加えたい。

色彩の周期律で知られるアメリカの色彩学者フェイバー・ビレンは、市場の実証的な研究から、1956年に室内備品市場における色彩の周期を10年とした。ここでは、流行色の主流はGREEN+BROWN期とRED+BLUE期に分かれ、交互に流行を繰り返すと説いている(図5-1)。(北畠耀「流行とは何か」、『カラーコーディネーションの実例』, 東京商工会議所刊, 2003年 原典はFaber Birren『Selling Color to People』, McGraw-Hill 1956)

また(社)日本流行色協会の調査部長であった太作陶夫らは『色彩の事典』(朝倉書店刊, 1987年)で流行色は交換性流行であるとして、次のように説明している(図5-2)。

1. クールカラーなかでも青を中心とし、それに調和する赤の時期

表4-3 JCC40の出現率の3地域トータルにおける相互関係(※※1%有意 ※5%有意)

	PK1	PK2	PK3	RE1	RE4	RE5	OR1	OR2	BR1	BR3	BR4	BR5	YE1	YE2	YE3	YG1	YG3	YG4	YG5	GN1	GN2	GN3	GN4	GN5	BG1	BG4	BL1	BL2	BL3	BL4	BL5	PU1	PU2	PU3	PU4	CG1	NE1	NE2	NE3	NE4	NE5					
PK1	1.000																																													
PK2	0.389	1.000																																												
PK3	0.245	0.617	1.000																																											
RE1	0.022	-0.450	-0.652	1.000																																										
RE4	0.599	-0.102	0.224	0.169	1.000																																									
RE5	-0.508	-0.742	-0.403	0.194	0.006	1.000																																								
OR1	0.674	-0.057	-0.119	0.208	0.772	-0.122	1.000																																							
OR2	0.005	0.402	0.047	-0.489	-0.457	-0.541	-0.164	1.000																																						
BR1	-0.021	0.011	-0.540	0.332	0.300	-0.388	-0.065	0.565	1.000																																					
BR3	0.220	0.026	0.316	0.081	-0.114	-0.073	-0.260	-0.209	-0.303	1.000																																				
BR4	0.139	-0.100	-0.440	0.476	-0.177	0.406	0.153	0.478	0.610	-0.217	1.000																																			
BR5	-0.430	-0.434	0.171	0.476	-0.183	0.526	-0.408	-0.081	-0.334	0.277	-0.488	1.000																																		
YE1	0.084	0.046	-0.240	0.406	-0.230	-0.553	-0.112	0.412	0.796	0.059	0.857	-0.346	1.000																																	
YE2	-0.356	-0.205	-0.667	0.443	-0.234	0.213	0.151	0.035	0.405	-0.491	0.270	-0.444	0.095	1.000																																
YE3	0.003	-0.779	-0.358	0.571	0.449	0.582	0.389	-0.609	-0.274	0.031	0.098	0.102	-0.143	0.045	1.000																															
YG1	0.473	-0.360	-0.198	0.125	0.339	0.282	0.563	-0.323	-0.184	0.339	-0.152	0.201	-0.194	-0.057	0.457	1.000																														
YG3	0.374	-0.285	-0.454	0.438	0.235	0.132	0.242	-0.249	0.350	-0.010	-0.159	0.025	0.212	0.112	0.196	0.475	1.000																													
YG4	0.465	-0.404	-0.001	0.304	0.646	0.076	0.643	-0.370	-0.331	0.118	0.168	-0.040	-0.044	-0.299	0.800	0.515	0.180	1.000																												
YG5	0.645	0.035	0.136	-0.063	0.634	-0.479	0.735	0.270	0.131	-0.191	0.432	-0.237	0.241	-0.555	0.172	0.221	0.143	0.629	1.000																											
GN1	0.715	0.234	-0.048	0.349	0.148	-0.565	0.210	0.129	0.381	0.331	0.546	-0.430	0.606	-0.345	0.003	0.187	0.535	0.331	0.421	1.000																										
GN2	0.643	0.271	-0.158	0.051	0.207	-0.401	0.627	0.059	0.154	-0.008	0.035	-0.383	0.079	0.173	-0.209	0.548	0.433	0.096	0.361	0.396	1.000																									
GN3	0.133	0.400	0.236	-0.478	0.061	0.313	0.344	0.355	0.010	-0.491	-0.151	-0.035	-0.136	0.129	-0.415	0.100	-0.102	-0.146	0.291	-0.256	0.508	1.000																								
GN4	0.662	0.482	0.363	-0.059	0.077	-0.712	0.118	0.300	0.137	0.289	0.365	-0.257	0.471	-0.585	-0.159	0.086	0.229	0.332	0.476	0.534	0.290	0.080	1.000																							
GN5	0.749	0.172	0.187	-0.011	0.558	-0.220	0.349	-0.103	-0.050	0.334	0.002	-0.168	-0.048	-0.489	0.009	0.226	0.441	0.278	0.433	0.582	0.250	-0.335	0.357	1.000																						
BG1	0.744	0.277	-0.125	0.385	0.251	-0.541	0.349	0.155	0.541	0.078	0.574	-0.522	0.609	-0.154	-0.076	0.235	0.646	0.212	0.446	0.919	0.515	-0.030	0.725	0.533	1.000																					
BG4	0.707	0.292	0.190	-0.327	0.324	-0.422	0.488	0.220	0.114	0.232	-0.061	-0.001	0.056	-0.246	-0.339	0.548	0.384	0.051	0.494	0.363	0.776	0.435	0.341	0.521	0.471	1.000																				
BL1	0.694	0.590	-0.300	0.197	-0.058	0.454	0.369	0.322	0.338	0.076	0.408	-0.085	0.239	0.237	-0.167	0.199	0.186	0.061	0.251	0.515	0.607	-0.036	0.403	0.406	0.596	0.355	1.000																			
BL2	0.212	0.584	0.632	0.780	0.151	0.658	0.150	0.747	0.124	0.130	0.072	0.163	0.220	0.491	-0.665	0.211	0.295	0.223	0.367	0.131	0.064	0.445	0.485	0.104	0.106	0.468	-0.001	1.000																		
BL3	0.325	0.707	0.438	-0.415	-0.398	-0.647	-0.229	0.540	0.012	0.251	0.114	-0.200	0.199	0.381	-0.501	-0.170	-0.228	-0.111	0.063	0.447	0.143	0.197	0.754	0.039	0.307	0.134	0.444	0.600	1.000																	
BL4	0.543	0.455	0.576	-0.085	0.222	-0.678	0.143	0.072	-0.182	0.290	0.175	-0.216	0.315	-0.635	-0.035	-0.017	-0.028	0.463	0.479	0.614	0.152	0.110	0.890	0.222	0.459	0.176	0.139	0.427	0.642	1.000																
BL5	0.274	-0.067	-0.235	0.395	0.736	0.589	0.563	-0.667	-0.266	0.080	-0.148	0.162	-0.348	-0.090	0.780	0.605	0.527	0.649	0.255	0.020	0.047	-0.187	0.184	0.346	0.107	0.073	-0.182	-0.563	-0.625	-0.153	1.000															
PU1	0.545	0.134	-0.308	0.253	0.241	0.109	0.635	0.134	0.346	-0.198	0.320	-0.519	0.110	0.438	0.076	0.538	0.269	0.151	0.264	0.288	0.604	0.323	0.148	0.121	0.522	0.421	0.610	-0.119	0.071	-0.062	0.238	1.000														
PU2	0.897	0.141	0.140	0.070	0.792	-0.280	0.832	-0.131	-0.003	0.004	0.075	-0.274	-0.001	-0.228	0.149	0.605	0.468	0.508	0.704	0.479	0.656	0.298	0.403	0.634	0.632	0.749	0.334	0.101	-0.049	0.327	0.538	0.596	1.000													
PU3	0.618	0.220	-0.040	0.121	0.563	0.232	0.473	-0.360	0.078	0.287	-0.158	0.191	-0.162	-0.325	0.320	0.796	0.717	0.398	0.264	0.369	0.402	-0.060	0.180	0.615	0.468	0.605	0.114	-0.137	-0.230	0.009	0.735	0.432	0.758	1.000												
PU4	0.164	0.105	0.166	-0.368	0.382	0.542	-0.019	-0.507	0.827	0.027	-0.795	0.451	-0.867	0.314	0.241	0.011	-0.306	0.124	0.192	0.605	-0.422	0.051	-0.433	0.089	-0.635	0.212	0.562	0.147	0.307	0.075	0.409	-0.351	0.404	0.132	1.000											
CG1	-0.535	-0.209	-0.449	0.181	0.128	0.283	0.016	0.036	0.172	-0.369	0.300	-0.183	0.105	0.088	0.068	-0.166	0.327	0.433	0.357	0.645	0.304	0.159	0.889	0.580	0.290	0.483	0.220	0.063	0.366	-0.524	0.734	0.156	0.137	-0.348	-0.411	-0.033	1.000									
NE1	0.195	0.580	0.991	0.121	0.355	-0.020	-0.180	0.556	-0.469	0.304	-0.303	0.363	0.403	0.083	0.079	0.086	0.336	0.592	0.020	0.045	0.180	0.401	0.023	0.285	0.050	0.034	0.229	0.335	0.281	0.020	0.251	0.258	0.403	0.414	0.044	1.000										
NE2	-0.540	-0.403	0.178	-0.231	0.031	0.573	-0.132	0.270	-0.565	0.086	-0.445	-0.532	-0.577	0.389	0.331	0.062	0.123	-0.085	0.573	0.722	0.035	0.445	0.117	0.247	0.589	0.572	0.191	-0.286	-0.227	0.187	0.403	-0.270	0.727	0.001	-0.286	0.172	1.000									
NE3	0.596	0.169	0.339	0.493	-0.617	0.313	0.090	-0.01	-0.280	0.347	-0.440	0.598	-0.182	0.441	0.374	-0.443	0.302	0.496	0.051	0.036	0.194	0.214	0.030	0.471	0.709	0.203	0.275	0.727	-0.207	-0.060	0.175	0.480	1.000													

2. ウォームカラーなかでも茶を中心とし、それに調和する緑の時期
3. 両色群の転換期にはベージュを含めて白、灰、黒のニュートラルカラーが流行する

ただし、両色群が流行している間、潜在色となるそれぞれの色群はアクセントカラーとして用いられることが多い。周期については、婦人服では約7年、インテリアでは約10年といわれており、したがって流行の寿命は約3年ということになる。

本調査においては、いかがであろうか。表3-1の経年変化における服装色の変化によれば、有彩色と無彩色の割合を比較すると、50%を境として、無彩色が50%を超えると、有彩色が50%を超えると、ほぼ5年で変化しており、色みのある色を着用したいときと、ブラックを中心とした無彩色を求めるときとが約5年で交互に繰り返している。

図5-3は本調査での有彩色と無彩色の割合の変化を図式化したものである。このように無彩色優位と有彩色優位が転換する場合、急激に上下が交差するのではなく、約2年間、両者の出現率がほぼ50%の等しい割合を示す次期を経て、やがて両者が逆転する点が特徴である。つまり、1995年～1996年は無

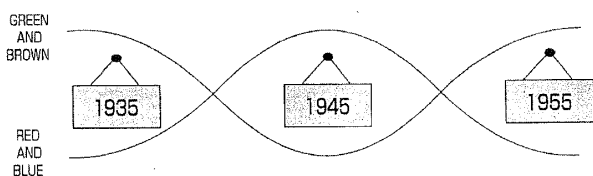


図5-1 アメリカの家具市場の色彩周期

(出典「カラーコーディネーターの実際 ファッション色彩1級」東京商工会議所刊)

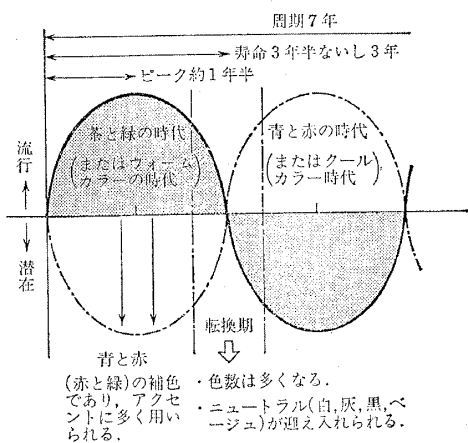


図5-2 流行色の周期

(出典「色彩の辞典」朝倉書店刊)

彩色優位でピークは50%台に上昇、反対に有彩色は40%台に低下し、その後、1997年～1998年は両者ともほぼ50%で推移、やがて1999年～2001年は有彩色優位でピークは60%台まで上昇し、無彩色は30%台まで低下するというような、規則的な推移がみられる。

さらに有彩色をみると、原宿と渋谷では、はじめに1995年のブルーの上昇を契機に、翌年以降、ブラックが低下し、ブルーの上昇に続く形で同調色であるピンクまたはレッド、およびグリーン、ブルーグリーンなどの中性色が上昇している。さらに1999年にブラックの下限が訪れると、翌年の2000年にブルーが上昇のピークを迎え、やがて、ブルーの下降にともない、レッドやピンク、グリーン、ブルーグリーンなど、その他多数の有彩色の割合も低下し、代わりにブラックが上昇するという推移を示している。

銀座では図5-4に示すように、原宿・渋谷の2地域と異なり、ブルーの推移はなだらかなのである。またブラックとホワイトとが相反の関係(表4-1より相関係数は-0.747)にある点に特徴がある。

以上の結果から、太作らが指摘した青+赤の流行の存在は、ブルーと同調するピンク(3地域でのブルー×ピンクの相関係数0.624、以下同様)をはじめ、ブルー×イエローグリーン(0.753)、ブルー×グリーン(0.757)という形で確認できた。ただし、レッド×ブルーの相関係数は-0.112と低いが、レッド+ピンクで見た場合、ブルーとの同調が認められる。一方、ブラウンとグリーンの相関係数は0.005と極めて小さく、本調査からは、茶+緑が同時に推移する循環は確認できなかった。

(財)日本色彩研究所が1990年に発表した女性服装色の約30年の調査結果(1954年～1985年までの32年間、春・夏・秋・冬の年4回、延べ128回の調査に基づく)によれば、周期性の問題についてブルー、ピンク、ベージュなどの一部の色の、一部の季節について、周期が検出されたにすぎず、大部分の色は周期変動つまり規則性の高い循環を示していないと結論づけられている。

ビレンらが調査を行ったのは1950年代、太作らが調査を行ったのは1960年～1980年代のことである。本調査時点と当時とは社会環境、ファッション環境が異なっている。また、日本色彩研究所の調査は30年にも渡る結果であり、本研究はまだ11年間にわたる調査であって、より長期間にわたる調査を

行い、さらにデータを集めて検討する必要がある。

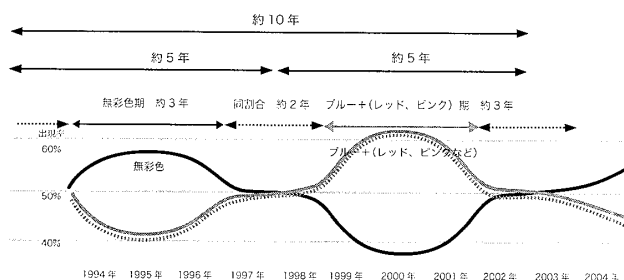


図5-3 原宿・渋谷における服装色の循環傾向

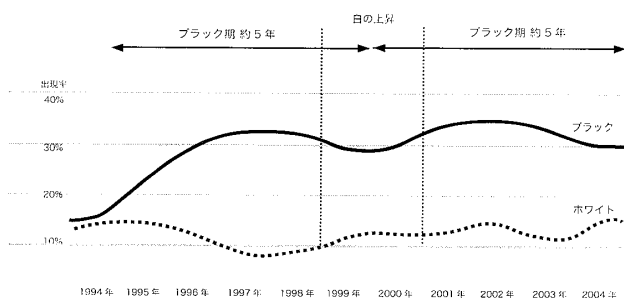


図5-4 銀座における服装色の循環傾向

6. まとめ

以下に、本論の冒頭で述べた疑問点に即して、結論をまとめる。

1) 11年間のストリートファッションの服装色の推移と規則性の有無

①無彩色と有彩色の変動

表3-1に示したように、無彩色と有彩色とが約5年で増減が変動している。特にブラックを基調に無彩色の割合が50%を超えて多く出現する約3年間、両者の割合がほぼ等しい2年間、さらにブルーを中心に有彩色の割合が60%を超えているときが交互に現れている。

②有彩色の変動

出現率の高いブルーでは、1994年は低く、2000年は高く、2003年は低くというように約5年程度で増減を繰返している。次いで出現率の高いブラウンでは、1997年と2002年との2つのピークを有し、ほぼ5年で増減が一巡している。またブルーが上昇線上にあるとき、レッドが2年おきに高い水準で増減を繰返しているが、2002年以降は急速に減少している。その代わりにピンクが急上昇しており、レッドとピンクを同時にみると、レッドとピンクは1年おきに増減を繰返している傾向がある。

以上を総合すると、11年間の調査の範囲では、原宿・渋谷の2地域では、ブラックを中心とする無彩色

が、約3年間50%を超え、続く2年間は無彩色が40%台となり、その後、無彩色は30%台に低下し、代わりにブルーを中心に、レッドまたはピンク、グリーン、ブルーグリーンなどの有彩色が上昇する結果となっている。ただ銀座は無彩色と有彩色とが約5年で交互に変換するものの無彩色が40%を下回るのはほとんどない。

2) 原宿・渋谷・銀座の3地域での出現色の特徴

原宿・渋谷・銀座の3地域の服装色の経年変化を比較すると、渋谷は色系統・トーンともに出現率の起伏が最も激しく、銀座はなだらかに推移している。無彩色において、ブラックの割合は、原宿・渋谷では33%を上限とし、15%を下限として激しく上下に移行しているが、銀座は1994年をのぞけば、1995年の24%を下限に、2002年の36%を上限として緩やかな推移である。グレイは、銀座での高い支持が特徴だが、1998年の18%を上限に、下限は2000年の5%で大きな差がある。一方、原宿・渋谷のグレイは、ほぼ5%~10%で推移している。

有彩色においても、渋谷・原宿のブルーは、出現率10%から20%台で推移しているのに対して、銀座は10%前後のなだらかな推移である。レッドとピンクも同様に原宿・渋谷は起伏が激しいのに対し、銀座のレッドはなだらかである。ブラウンは、銀座での高い出現率が特徴であり、銀座・渋谷の出現率の上下が激しいのに対して、原宿は低水準で移行している。総じて、渋谷の服装色の変化の激しさは特色であり、銀座は穏やかな推移を示している。

3) ストリートファッションの服装色における同調色と相反色の有無とその特徴

色系統互の出現率の相関係数を求め、同調色・相反色を判別したところ、以下の結果となった。3地域トータルの場合では、ブルー×グリーン、ブルー×パープル、ブルーグリーン×グリーン、カラードグレイ(アイボリー)×イエローの類似色系統、ブルー×ピンク、ブルー×イエローグリーン、レッド×イエロー、ブルーグリーン×パープルの中差色系統、ブルーグリーン×ピンク、ピンク×グリーン、イエローグリーン×パープルなどの対照色系統が比較的高い相関性を示しており、ブルーを中心とした11の組み合わせであった。このように同調して推移する色は、おおむねブルーを中心にして、ピンク、レッド、イエローなどの有彩色を組み合わせるケースが多かった。

反対に高い負の相関がある色には、ブラック×オレ

ンジ、ブラック×パープル、ブラック×イエローグリーン、グレイ×グリーン、グレイ×ブルーグリーン、カラードグレイ(アイボリー)×ブルー、カラードグレイ(アイボリー)×グリーンの7つであり、すべて無彩色あるいはカラードグレイ(アイボリー)との組み合わせであった。

以上のことは無彩色が上昇すると、ブルー、ピンクおよびレッド、グリーン、ブルーグリーンなどの色が減少し、反対に無彩色が減少すれば、これらの色が上昇することを示している。

4) 既存の研究と比較しての11年間のストリートファッションの服装色の推移と周期

フェイバー・ビレンや太作陶夫らの周期説によれば、有彩色の青+赤期と茶+緑期とが交互に循環し、その交差期には無彩色が流行するという説を提案している。即ち、＜青+赤＞⇒無彩色⇒＜茶+緑＞という具合に3年～3年半の周期で循環しているというのである。

しかし、本調査での11年間の範囲内では、図5-3に示したように、原宿・渋谷の両地域では、ブラックを中心とする無彩色優位の約3年間の時期と、無彩色と有彩色がほぼ同じ割合となる約2年間の時期を経て、やがてブルーを中心としてレッドまたはピンク、グリーン、ブルーグリーンなどの色が優位になる約3年間の時期が循環する傾向がある。つまり、＜無彩色(ブラック中心)＞⇒無彩色と有彩色とがほぼ同割合⇒＜有彩色(ブルー+レッド、ピンク、グリーン、ブルーグリーンなど)＞という具合に変化するという結果となった。また銀座では、図5-4の通り、常にブラックが優位を占めているが、ブラックが下降するとホワイトが上昇するような推移である。

以上、本論では、ストリートファッションにおける服装色の推移について、服装色における循環性、同調色・相反色の検討について数量的に分析を行なった。本報は11年間の調査年範囲での傾向分析を行ったが、今後も継続して調査を行い、これらの推移をさらにみていくとともに、原宿・渋谷・銀座の地域別の差異に着目し、引き続き調査・研究を行ないたい。

参考文献

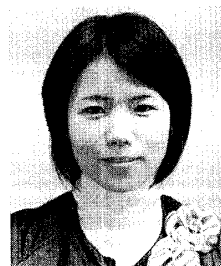
- 1) (財)日本色彩研究所編：カラートレンドを探る—女性服装色30年の変遷—, 衣生活研究所(1990)
- 2) 川上元郎・児玉晃・富家直・大田登編：色彩の事典, 朝倉書店(1987)400-402

- 3) 太作陶夫著：色彩流行学, エムジー(1987)98-99
- 4) 東京商工会議所編：カラーコーディネーションの実際 ファッション色彩 第7章, 中央経済社(2003)160-162
- 5) Faber Birren: Selling Color to People, McGraw-Hill(1956)
- 6) 名取和幸：半世紀にわたる女性服装色実態調査, 日本色彩学会誌Vol.27, No4(2003)324-329
- 7) 大関徹：百貨店店頭定点観測に見る服装色の特徴, 日本色彩学会誌Vol.27, No4(2003)330-334

(投稿受付日：2006年5月12日)

(掲載決定日：2006年12月7日)

著者紹介



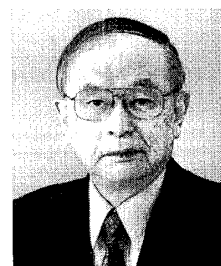
わたなべ あ す か
渡辺明日香

1972年5月8日生

1997年共立女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修士課程修了
日本色彩学会、日本家政学会、ファッションビジネス学会

修士(家政学)

現在、共立女子短期大学生活科学科助手



じょうか すお
城一夫

1937年3月8日生

1960年青山学院大学英米文学部英米文学科卒
日本色彩学会、ファッションビジネス学会、歌舞伎学会

現在、共立女子短期大学生活科学科教授



こだま よしのぶ
児玉好信

1947年12月30日生

1976年東京工業大学大学院建築学専攻
社会心理学会、老年社会科学会
現在、共立女子短期大学生活科学

科教授